

篠川事務所の”ホット”通信

2018年2月号

税理士・中小企業診断士 篠川徹太郎事務所

〒226-0003

神奈川県横浜市緑区鴨居 3-1-9-201

電話：045-530-3727 F A X：045-530-3728

<http://shinokawa-office.com>

mail@shinokawa-office.com



ホットな話題をほっとするような分かりやすさでお伝えする”ホット”通信・・・Vol.42をお届けします。

庭の木に鳩が時々遊びに来てくれます。前にここでひなが生まれたので、戻ってきてくれたのでしょうか？朝にはホホーとのどかな声で鳴いたりしていますが、昼頃にはどこかに行ってしまうのです。

【その差3倍以上！平均給与が最も高い業種は】

国税庁より昨年の九月に平成二十八年分の「民間給与実態統計調査」が発表されました。この調査の特徴は、従業員1人から5000人以上の事業所まで広く調査されていることや、給与階級別・性別・年齢階層・勤続年数別による給与所得者の分布が分かることです。また企業規模別に給与の実態が分かることも特徴のひとつといえます。平成二十八年の1年を通じて勤務した給与所得者の人数は4869万人で、前年に比べて75万人増えました。また平均給与は422万円、1.2万円増えています。男女別では、男性が2862万人で521万円、女性が2007万人で280万円になります。

前年に比べると、給与所得者数では男性31万人増で女性が44万人増、平均給与では男性0.6万円増で女性が3.7万円増となっています。次に雇用形態別でみてみると正規は487万円、それに対して非正規は172万円になります。事業所の規模別で平均給与を比較すると、事業所規模10～29人では393万円（給与355万円・賞与38万円）に対して、



事業所規模5000人以上では509万円（給与398万円・賞与111万円）と、事業所規模による平均給与の差は賞与によるところが大きいです。業種別の平均給与では「電気・ガス・熱供給・水道業」の769万円が最も高く、最も低い「宿泊業・飲食サービス業」234万円の3倍以上でした。

【彩り豊かでインスタ映えする「鍋」が女性に大人気】

身も心も温まる鍋料理は寒い冬の定番ですが、いつもの鍋とは一線を画す、見た目も華やかな「フルーツ鍋」が注目を浴びています。彩り豊かなトロピカルフルーツやベリー類を肉や魚介と合わせると爽やかさや酸味がアクセントとなって味わい深くなり、豊富なビタミンCやクエン酸で美容効果も期待できます。温かい鍋は体を冷やす心配もありません。インスタ映えするカラフルなビジュアルは圧倒的に女性に大人気で、いつもの鍋が斬新で究極の料理と化しています。



今月の教えてキーワード：【スマートスピーカー】

人の音声認識する「AIアシスタント」が搭載されたスピーカーのこと。スピーカーに向かって話しかけると、インターネット経由でAIアシスタントがその内容を解析して応答する。指での操作が必要なスマホやパソコンと異なり音声で操作できる。現在できることは天気予報の確認、音楽の再生やタイマーのセット、調音などの。対応する照明やテレビではオン・オフの操作も可能で今後、活用の幅が広がるのが期待される。

【こぶしが咲けば春が来る】

早春の頃、ほかの木に先駆けて白い花をこずえいっぱい咲かせるこぶし。直径10cm程の大きな花は、新葉より早く開花します。



「こぶし咲く、あの丘、北国の、ああ北国の春」。千昌夫さんの『北国の春』の歌詞でもおなじみの花です。

東北地方では、こぶしの花が咲き出すともうすぐ春がやって来ます。寒い冬を乗り越えてきた北国の人々は、こぶしの花が咲く日を今か今かと待ち望んでいます。

昔はこぶしの花の開花時期から農作業のタイミングを判断したり、花の向きから豊作かどうかを占ったりしたそうです。そのためこぶしは「田打ち桜」「田植え桜」「種まき桜」などとも呼ばれています。

昔の人は季節の変化（自然現象）から農作業の時期を判断していました。植物がそれぞれの特性に適した季節に開花することを体験的に知っていたのでしょう。子孫を残すために不可欠な植物の知恵が、人間の生活の知恵にもなっていたのです。

多くの植物がそれぞれ決まった時期に花を咲かせるのは、昼と夜の長さから季節を認識して反応する「光周性」という現象によるものだそうです。植物の光周性はきわめて繊細で、明るい時間と暗い時間の差が30分程度あれば敏感に反応するのだとか。

夜間でも温室内に照明をつけて日長を調節すると植物は季節を勘違いします。季節外れの花や野菜が店頭には並ぶのは植物の光周性を利用した人間の知恵であり、見方を変えれば人間の欲でもあります。

その昔、自然と人間は今よりも良い関係でした。私たちの祖先は自然を尊重し、敬意を払い、恵みに感謝しながら自然の知恵をお借りしていたのでしょう。春が近づけば自然とこぶしの花が咲くように、何事にもそれに相応しい時期があるものです。真夏にこぶしを咲かせようとすればしっぺ返しをくらうかもしれません。欲も行き過ぎれば商機を逸してしまいます。何事にも焦ることなく、知恵で商機を見出したいものですね。

革新の鍵は
捨てることにある

今を生きる！

先人の言葉

オーストリア生まれの経営学者であるピーター・ドラッカーの言葉。古いものを捨て去り、絶えず新しいものを取り入れなければならないの先、衰退するばかりだろう。

【ぼくの伯父さん】

伊丹十三は「マルサの女」や「あげまん」などの映画監督として名を残しましたが、エッセイの書き手としても一流でした。

70年代と60年代のエッセイを集めた本書でちょっと変な人のちょっと斜に構えた物の見方を味わってみるのは如何でしょう？

